労働省婦人少年局が刊行した
『婦人労働調査資料』『婦人関係調査資料』
を中心に生の貴重な調査資料を纏め、
民主主義社会における戦後30年の
婦人の労働や生活の実態を伝える。

戦後
婦人労働・生活
調査資料集

全26巻

監修
高橋久子
湯沢雍彦
原田冴子

クレス出版

戦後婦人労働・生活調査資料集　全26巻

未来を展望する鍵

昭和22年、労働省の設置とともに発足した婦人少年局の行政推進にあたっての二本の柱は、「調査」と「啓発」であった。

戦前、女子の劣悪な労働条件が社会問題化し、工場法の制定をみたが、まだ、その実態には不明の部分が多く、新しく民主主義に基礎をおいた行政をすすめるうえで、何よりもまず、その実態を明らかにすることが必要とされた。しかし、予算、人員、すべて乏しく、さらに荒廃した社会の中で実態をありのままに拾いあげる作業には抵抗も多く、時には身の危険をともなうなど、往時の苦労をしのばせるエピソードには事欠かない。

このような涙ぐましい努力の結晶として数かずの調査が、当時、恵まれない状況下におかれていた女子の実態を明らかにし、その後の行政の基礎となっていった。

今回、これらの調査が復刻出版されるに当たり、監修を引き受けたのは、これら貴重な調査が今では人の眼に触れる機会も少なくなっていることを、つねづね、残念に思っていたからにほかならない。

今回の出版は、婦人少年局発足時から昭和50年、いわゆる国際婦人年までのものである。この間の婦人労働に関する調査は、①女子保護に関するもの、②女子の雇用管理に関するもの、③家内労働者、家事使用人など雇用労働者以外のもの、に大別される。年代別にみると、はじめの頃は女子保護に関するものが中心になっていたが、高度成長にともなう労働力不足の進展につれて、中高年、既婚婦人の雇用管理に関するものが増えるなど、時代の移り変わりをうかがわせる。

各巻に分別するに当たっては、利用の便を考え、出来るかぎり同質のものをまとめ、さらに年代を加味して各巻を構成した。

昭和60年、雇用機会均等法が制定され、女子労働は大きく様がわりした観があるが、現在の女子労働は過去の発展のうえに築かれているものである。現在を知り、未来を展望するうえで、過去の事実を正しく認識することは必須であり、今回の出版がその一助になれば、監修者としてこれに過ぐるよろこびはない。

労働篇監修
高橋　久子

監修にあたって

生活実像確認の宝庫

最近は、現代の家族が機能喪失に陥っていることを強調したいあまり、一昔前の日本の家族がばかに美化されて語られることが多い。夫婦とも辛抱強かったから離婚が少なかったとか、親は子を懸命にいつくしみ、子は親を尊敬していたから「家庭内暴力」などは言葉すらなかったとか、どこの村の貧しい家でも夕食の一家だんらんは必らずあった、といったたぐいである。

だが、少し丹念に調べてみると、反対の材料はいくつも見つかって、昔の家族像は、根拠を欠く空想の産物にすぎないのではないかと思われてくる。だから問題は、何が大多数を占めていた家族の実像かということになるが、その具体的把握の方法は難しい。昭和20年代から40年代にかけて、継続的に全国的状況をとらえた資料は実に乏しかったのである。

その中で、労働省婦人少年局の調査報告は異彩を放っていた。婦人労働に関係する諸問題のほかに、女性のいる家庭生活にまつわるテーマも取上げて、次々と行っていたのである。テーマは地味ながら時代の要請に答えるものであり、対象は全国から抽出され、分析も堅実であった。

昭和20年代から40年代にかけての、工場労働者家族の生活、農山漁村婦人の生活、女世帯、売春婦とその更生、婦人の社会的関心など、大学の教室では全く教えてくれない生活実態を示されて何度も目が洗われる気持になったことを思い出す。当時の大多数を占める労働者家族は、今とは違った状況の中で、やはり苦しい生活を送っていたのである。ただ惜しいことに内部資料のため印刷部数が著しく少なく、よほどの幸運に恵まれなくては閲覧することも難しかった。それが復刻されることになった。宝庫の扉が開かれて万人の目に触れる機会が訪れたことを喜びたい。

生活篇監修
湯沢　雍彦

日本女性史の貴重な証言

藤田　たき

1947年9月婦人少年局発足以来、約25年にわたり公表されたわが国婦人労働の実態や、婦人の生活と意識に関する貴重な調査報告がこのたび復刻出版される運びとなったことは、まことに喜ばしいことであります。

戦後、女性の地位向上のため、初期の婦人少年局が取りくんだ主な仕事は、第一に、新しく女性に与えられた諸権利や、法制上の地位についての啓発、教育活動、第二は、戦前はほとんど世間に知られていなかったきびしい婦人労働の実態について調査しそれを広く社会に提供することでした。

きくところによれば初代婦人少年局長山川菊栄氏はすでに戦前からアメリカ労働省婦人局発行の調査資料を多分に入手していられ、ゆくゆくは日本でもぜひこういう仕事をという抱負をいだいていられたということです。

かくて山川局長以下そうそうたる人材揃いの婦人少年局によって企画されたこの全国調査は、その出先機関の都道府県婦人少年室長ら、婦人解放、その地位の向上に情熱をもって集った職員諸氏によって忠実に実施されたのでした。彼女らは、山間僻地であれ、雪深い里であれ、自ら出向いて対象者の一人一人に面接し調査票を集めたのです。しかもこれら職員の一人一人は法律に明記された調査の権限をもっていました。調査結果が信憑性の高いものとなったことは当然でしょう。

今日では、官民あげて婦人労働や婦人問題の調査が華やかに扱われていますが、戦後の大変革の時代に行われたこの調査の結果はその原点であり、また日本女性史の貴重な証言でもありましょう。広く活用していただければ幸いです。

（元労働省婦人少年局長、元津田塾大学学長）

「温故知新」――貴重な〝現代史〟

松山　幸雄

昭和22年、労働省に婦人少年局が誕生して以降、昭和50年までに同局が実施した数多くの「婦人に関する実態調査」が、今回クレス出版から復刻される、ときいて、たいへんよろこばしいことだと思った。

いまから40年近く前、私のジャーナリストとしての最初の仕事は、長野市の警察や労働基準局（その一室に婦人少年室が間借りしていた）をまわることだった。毎日目にし、耳にする事件は、社会の仕組みの不合理性、および広い意味でのその犠牲者、被害者の悲話がほとんどだった、といってよい。とくに女性が二級市民扱いされている点には、（学生時代には考えたことがなかったので）驚かされ、また大いに義憤を感じたのをおぼえている。

最近の若い人は三K――汚い、きつい、危険な仕事――を敬遠するといわれるが、当時の女性は三Kどころでなかった。とくに農村では苛酷な労働を強いられていた。だいたい「炊事」「洗濯」といった言葉から連想される労働の内容が、今とはまるで違うのである。老婆の顔のシワ、腰の曲がり方をみても、この40年間の変化ははっきりしている。

私が長野支局で個人的に社会勉強をしていたころ、婦人少年局は情熱的な使命感をもって、全国的な調査を実施していた。当時の食糧、交通事情、さらに社会全体の非協力的な空気からいって、これは精神的にも、労力的にもさぞたいへんな仕事だったろうと推察する。またマスコミの関心の持ち方からいって、こうした地味な記録はあまり報道されずに終わったに違いないと思う。

ここに出てくる実情は、決して遠い昔話でなく、つい最近のことであり、また日本の各地、各界に依然としていろいろな形で根強く残っている傾向なのだ。「温故知新」――日本の女性の地位の更なる向上を目指して、この貴重な〝現代史〟が広く利用されることを期待したい。

（朝日新聞論説主幹）

渇望された実証的資料の復刻

原　ひろ子

第二次大戦後、日本社会における女性の法的位置づけが大きく変り、その生活実態や生活意識も過渡期の状況を呈し続けている。

現在、私が教えている学生さんたちは、家庭に水道がなく井戸水を汲んでタドンで朝食を炊き、夫が工場へ働きに行ったあと手内職をする妻の姿を考えてごらんなさいといっても、それは大昔の話であるとまず認識するらしい。

十年前からの国際女性学会の事業の一つとして、「〈女と仕事〉の本一　一九四五～九七四」という文献解題の書（勁草書房）を一九八五年に出したとき、戦後まもなく設置された労働省婦人少年局がどれほど多くの具体的実証的な調査を行い、それを印刷して、婦人労働の実態・労働者家族の実態の把握に努めたかを、つぶさに知ることができた。しかし、これらの資料は、限られた図書室に禁帯出のものとして所蔵されているため、学生さんのリポート作成や、講義の教材として活用することは不可能であり、毎年、残念な思いを重ねてきていた。

このたび、その莫大な調査資料の中から、適確に選定された『戦後婦人労働・生活調査資料集』全26巻が出版されることになり、まことに喜ばしい。このシリーズは社会経済の大転換期における日本女性の体験や家族生活をふりかえり、考察する上でのまさに貴重な書物である。ここに復刻される資料は、家族社会学を志す者、社会変動と女性との関連を国際比較・文化比較の視点で分析しようとする国の内外の研究者、そして高校・短大・大学の図書館や地域の図書館を利用する女性学に関心を持つ人々にとって必読のものと信ずる。

（日本民族学会会長、お茶の水女子大学女性文化研究センター教授）

戦後婦人労働・生活調査資料集　全26巻　全巻構成

第1巻　労働篇〔1〕　産業別労働実態(1)

①製糸工場の女子労働者　(昭和25年9月)
②綿紡績工場の女子労働者　(昭和27年4月)
③絹人絹織物工場の女子労働者　(昭和28年3月)

第2巻　労働篇〔2〕　産業別労働実態(2)

①女子の官公庁職員に関する調査　(昭和24年12月)
②百貨店女子職員労働実態調査速報　(昭和28年6月)
③銀行の女子職員　(昭和29年4月)
④美容業の女子従業員　(昭和33年3月)
⑤女子事務職員　(昭和38年2月)

第3巻　労働篇〔3〕　産業別労働実態(3)

①病院診療所の看護婦　(昭和26年4月)
②電話交換作業における婦人労働の実情　(昭和28年11月)
③乗合自動車業女子従業員労働実態調査速報
－車掌を中心として－　(昭和29年12月調査)
④乗合バスの女子従業員　(昭和31年10月)

第4巻　労働篇〔4〕　産業別労働実態(4)

①パン菓子製造業の女子労働者　(昭和34年3月)
②水産食料品製造業の女子労働者　(昭和35年3月)
③精密機械器具製造業の女子労働者　(昭和39年2月)

第5巻　労働篇〔5〕　産業別労働実態(5)

①金属機械製造業における婦人労働実態調査　(昭和47年3月)
②繊維工業における婦人労働実態調査　(昭和48年9月)
③保育所における保母の労働実態調査報告書　(昭和48年10月)
④製造業生産工程における女子の就業状況に関する調査
(昭和50年3月)

第6巻　労働篇〔6〕　女子保護(1)

①女子の重量物取扱作業に関する調査　(昭和27年8月)
②女子の重量物取扱作業に関する実験その1～3
(昭和30年6月)
③紡績婦人労働者の深夜業に関する調査－特に二交代勤務者の深夜業の疲労について－　(昭和28年3月)
④煙火製造事業場の調査について　(昭和33年11月)

第7巻　労働篇〔7〕　女子保護(2)

①産前産後休業調査　(昭和27年11月)
②産前産後の休業状況調査　(昭和29年11月)
③婦人労働者の「冷え」に関する調査研究　(昭和40年4月)
④婦人労働者の妊娠・出産に関する調査　(昭和44年10月)
⑤勤労婦人の妊娠・出産に関する調査　(昭和49年8月)
⑥深夜労働に従事している勤労婦人の母性保護に関する調査結果報告書　(昭和49年12月)

第8巻　労働篇〔8〕　労働組合

①労働組合のなかの婦人－1954年版－　(昭和29年2月)
②労働組合のなかの婦人－1954年－　(昭和30年5月)
③労働組合のなかの婦人－1955年－　(昭和31年6月)
④労働組合のなかの婦人－1956年－　(昭和32年7月)
⑤労働組合のなかの婦人－1957年－　(昭和33年6月)
⑥労働組合のなかの婦人－1960年にいたるあゆみ－
(昭和35年1月)
⑦労働組合のなかの婦人－1960年－　(昭和36年12月)

第9巻　労働篇〔9〕　雇用管理(1)

①婦人の雇用機会拡大についての世論調査　(昭和25年4月)
②幹部職員の地位にある婦人　(昭和28年10月)
③変りゆく女子の職業分野－女子労働者の雇用状況に関する調査報告－　(昭和39年12月)
④女子労働者の雇用の状況　(昭和41年1月)
⑤女子労働者の就労状況の変化に関する調査　(昭和45年6月)
⑥女子労働者の雇用管理に関する調査　(昭和47年8月)
⑦女子の雇用管理に関する実態調査　(昭和50年3月)

第10巻　労働篇〔10〕　雇用管理(2)

①家庭責任をもつ女子労働者－女子労働者の職業と家庭責任についての調査－　(昭和41年1月)
②既婚女子労働者に関する調査　(昭和43年3月)
③中高年齢婦人の就業分野に関する調査　(昭和44年2月)
④中高年齢婦人の労務管理事例集　(昭和45年2月)
⑤主婦の就労に関する調査　(昭和45年9月)

第11巻　労働篇〔11〕　雇用管理(3)

①女子の職場施設　(昭和26年8月)
②働く婦人の衛生管理について　(昭和28年7月)
③婦人労働者の生産労働と家事並びに母性活動に関する調査研究　(昭和30年9月)
④製造業小規模事業所の女子労働者－30歳以上になって採用された女子労働者の職業生活－　(昭和44年11月)
⑤育児休業に関する意識調査　(昭和48年8月)
⑥育児休業実施事例集－育児休業制度に関する調査結果－
(昭和50年3月)

第12巻　労働篇〔12〕　雇用管理(4)

①未亡人の雇用に関する調査－飲食店旅館等の部－　(昭和31年6月)
②未亡人等の雇用の実情－製造業及び非製造業－　(昭和32年3月)
③パートタイム雇用の実情　(昭和42年3月)
④パートタイム雇用の実情(2)　(昭和43年3月)
⑤女子パートタイム雇用の実情　(昭和46年7月)

第13巻　労働篇〔13〕　女子保護の概況調査(1)

①昭和28年における女子保護の概況　(昭和30年5月)
②昭和29年における女子保護の概況　(昭和31年4月)
③女子保護の概況－昭和30年分－　(昭和32年1月)
④女子保護の概況－昭和31年分－　(昭和32年9月)
⑤女子保護の概況－昭和32年分－　(昭和33年12月)
⑥女子保護の概況－昭和33年－　(昭和34年9月)
⑦女子保護の概況－昭和34年－　(昭和35年9月)
⑧女子保護の概況－昭和35年－　(昭和36年9月)

第14巻　労働篇〔14〕　女子保護の概況調査(2)

①女子保護の概況－昭和36年－　(昭和37年9月)
②女子保護の概況－昭和37年－　(昭和38年9月)
③女子保護の概況－昭和38年－　(昭和39年9月)
④女子保護の概況－昭和39年－　(昭和40年9月)
⑤女子保護の概況－昭和40年－　(昭和41年9月)
⑥女子保護の概況－昭和41年－　(昭和42年8月)
⑦女子保護の概況－昭和42年－　(昭和43年8月)

第15巻　労働篇〔15〕　女子保護の概況調査(3)

①女子保護の概況－昭和43年－　(昭和44年7月)
②女子保護の概況－昭和44年－　(昭和45年9月)
③女子保護の概況－昭和45年－　(昭和46年8月)
④女子保護の概況－昭和46年－　(昭和48年2月)
⑤女子保護の概況－昭和48年－　(昭和49年10月)

第16巻　労働篇〔16〕　賃金・家事使用人

①派出看護婦の実情　(昭和27年3月)
②住込家事使用人の実情　(昭和35年8月)
③通勤家事使用人の実情　(昭和36年9月)
④男女同一賃金についてのアンケート結果　(昭和37年4月)
⑤婦人の賃金の実情と問題点　(昭和33年12月)
⑥定年制度及び退職一時金制度における男女差の実情　(昭和34年9月)

キーパンチャー(第2巻　女子事務職員　口絵より)

第17巻　労働篇〔17〕　内　職(1)

①家内労働の実情　(昭和26年6月)
②家内労働の実情　(昭和27年3月)
③家庭内職調査報告書　(昭和29年3月)
④家庭内職の実情　(昭和30年3月)

第18巻　労働篇〔18〕　内　職(2)

①内職就業基本調査報告　(昭和44年10月)
②昭和41年内職工賃調査結果概要－外衣製造業・その他の衣服繊維製身のまわり品製造業－　(昭和43年8月)
③昭和42年内職工賃調査結果概要－紙製品製造業、紙容器製造業、がん具、スポーツ用具製造業－　(昭和43年12月)
④昭和43年内職工賃調査結果概要－民生用電気機械器具製造業、通信機械器具、同関連機械器具製造業、時計・同部品製造業－　(昭和44年4月)
⑤昭和44年内職工賃調査結果概要－外衣製造業・その他の衣服繊維製身のまわり品製造業－　(昭和44年11月)
⑥昭和45年内職工賃調査結果概要－紙製品製造業、紙製容器製造業、がん具、スポーツ用具製造業－　(昭和45年10月)
⑦昭和46年内職工賃調査結果概要－民生用電気機械器具製造業、通信機械器具・同関連機械器具製造業、電子機器用および通信機器用部品製造業－　(昭和46年12月)
⑧昭和47年内職工賃調査結果概要－外衣製造業、中衣・下着製造業、その他の衣服・繊維製身のまわり品製造業－　(昭和48年3月)
⑨昭和48年内職工賃調査結果概要－紙製品製造業、紙製容器製造業、がん具・運動競技用具製造業－　(昭和49年1月)
⑩昭和49年内職工賃調査結果概要－民生用電気機械器具製造業、通信機械器具・同関連機械器具製造業、電子機器用および通信機器用部分品製造業－　(昭和50年1月)

第19巻　生活篇〔1〕　労働者家族(1)

①工場労働者家族の生活－生活状況の実態と生活時間－　(昭和27年9月)
②労働者の主婦の意見調査－生活や組織活動について－　(昭和27年9月)
③中小工場労働者家族の生活　(昭和29年4月)

第20巻　生活篇〔2〕　労働者家族(2)

①下層労働者家族の生活　(昭和31年12月)
②労働者家族の生活－扶養の問題を中心として－　(昭和32年9月)
③社宅に住む労働者の妻の意見－現在の生活と老後の問題について－　(昭和33年11月)
④労働災害遺族の生活実態に関する調査　(昭和44年10月)
⑤製造業女子家族従業者の生活実態に関する調査　(昭和45年8月)
⑥労働者家族の福祉に関する調査　(昭和45年10月)
⑦卸売業、小売業女子家族従業者の生活実態に関する調査　(昭和46年8月)

第21巻　生活篇〔3〕　農山漁村婦人

①農村婦人の生活　(昭和27年8月)
②山村婦人の生活　(昭和31年8月)
③漁村婦人の生活　(昭和32年12月)
④農家婦人生活に関する意識調査　(昭和39年1月)
⑤農村出稼者の妻の生活と意識－出稼留守家庭に関する調査－　(昭和41年7月)
⑥農家婦人の労働生活に関する意識調査　(昭和43年3月)
⑦農家婦人の農外就労に関する調査　(昭和44年2月)

第22巻　生活篇〔4〕　女　世　帯

①女世帯生活実態調査報告書　(昭和25年3月)
②女世帯の実態　(昭和26年3月)
③全国の女世帯　(昭和29年3月)

第23巻　生活篇〔5〕　風紀・売春

①風紀についての世論　(昭和28年9月)
②売春婦並びにその相手方についての調査　(昭和28年9月)
③戦後新たに発生した集娼地域における売春の実情について　(昭和30年11月)
④売春婦の転落原因と更生の問題　(昭和33年7月)
⑤婦人の更生に関する事例　(昭和35年7月)
⑥風紀についての意識　(昭和37年8月)
⑦風紀についての意識　第二次意識調査　(昭和39年3月)

内職する母親（第20巻　下層労働者家族の生活　口絵より）

第24巻　生活篇〔6〕　消費生活水準

①勤労者家庭の消費生活水準と主婦の意識　(昭和38年10月)
②勤労者家庭の消費生活水準に関する主婦の意識調査－子供の教育問題－　(昭和39年10月)
③勤労者家庭の消費生活水準に関する意識調査－文化・教育の問題－　(昭和40年11月)
④勤労者家庭の消費生活水準に関する意識調査－情緒安定－　(昭和41年12月)
⑤勤労者家庭の消費生活水準に関する意識調査－老後および不時の出費の問題－　(昭和41年10月)

第25巻　生活篇〔7〕　婦人の地位と意識

①婦人の市民意識についての調査　(昭和26年3月調査)
②封建性についての調査　(昭和26年4月)
③婦人は何を考えているか　(昭和27年8月)
④婦人の社会的関心に関する調査　(昭和31年1月)
⑤婦人の地位についての調査　(昭和33年2月)
⑥主婦の生活と意見　(昭和33年11月)
⑦婦人の生活構造と意識に関する調査　(昭和41年12月)
⑧婦人の地位に関する実態調査　(昭和48年3月)

第26巻　生活篇〔8〕　生活意識他

①婦人と職業－職業婦人の世論調査－　(昭和24年3月)
②婦人の職業生活に関する世論調査　(昭和29年12月)
③協同活動についての調査　(昭和33年9月)
④主婦の自由時間に関する意識調査　付階層別生活時間調査　(昭和34年11月)
⑤主婦の病気・出産時の静養に関する調査　(昭和35年3月)
⑥協議離婚の実態　調査結果報告書　(昭和36年9月)
⑦社会サービス活動と婦人の意識　(昭和38年8月)

戦後婦人労働・生活調査資料集　配本予定

第１回配本　労働篇〔1〕〜〔8〕　平成３年６月25日刊

全８巻揃定価107,120円（本体104,000円）

第１巻	労働篇〔1〕　産業別労働実態(1)
第２巻	労働篇〔2〕　産業別労働実態(2)
第３巻	労働篇〔3〕　産業別労働実態(3)
第４巻	労働篇〔4〕　産業別労働実態(4)
第５巻	労働篇〔5〕　産業別労働実態(5)
第６巻	労働篇〔6〕　女子保護(1)
第７巻	労働篇〔7〕　女子保護(2)
第８巻	労働篇〔8〕　労働組合

第２回配本　生活篇〔1〕〜〔8〕　平成３年10月25日刊

全８巻揃定価109,180円（本体106,000円）

第19巻	生活篇〔1〕　労働者家族(1)
第20巻	生活篇〔2〕　労働者家族(2)
第21巻	生活篇〔3〕　農山漁村婦人
第22巻	生活篇〔4〕　女世帯
第23巻	生活篇〔5〕　風紀・売春
第24巻	生活篇〔6〕　消費生活水準
第25巻	生活篇〔7〕　婦人の地位と意識
第26巻	生活篇〔8〕　生活意識他

第３回配本　労働篇〔9〕〜〔18〕　平成４年２月20日刊

全10巻揃定価133,900円（本体130,000円）

第９巻	労働篇〔9〕　雇用管理(1)
第10巻	労働篇〔10〕　雇用管理(2)
第11巻	労働篇〔11〕　雇用管理(3)
第12巻	労働篇〔12〕　雇用管理(4)
第13巻	労働篇〔13〕　女子保護の概況調査(1)
第14巻	労働篇〔14〕　女子保護の概況調査(2)
第15巻	労働篇〔15〕　女子保護の概況調査(3)
第16巻	労働篇〔16〕　賃金・家事使用人
第17巻	労働篇〔17〕　内職(1)
第18巻	労働篇〔18〕　内職(2)

戦後婦人労働・生活調査資料集

全26巻揃定価350,200円（本体340,000円）

- B5判／上製角背／クロス装函入
- 解題を各篇最終巻に附す。

労働篇：高橋　久子（勤労者福祉振興財団顧問、元労働省婦人少年局長）
原田　冴子（元雇用職業総合研究所婦人雇用研究室長）
生活篇：湯沢　雍彦（お茶の水女子大学教授）

別冊附録

座談会「婦人の調査草分けのころ」を冊子にして第２回、３回に附します。

出席予定者

井上　繁子（郡山女子大学講師、元婦人少年局婦人課長）
木下　雪江（共栄学園短期大学講師、元婦人少年局婦人課長）
鈴木　栄子（元婦人少年局婦人課長）
東出恵美子（元東京婦人少年室長）
高橋　久子　（司会）**原田　冴子**

好評既刊書

「家族・婚姻」研究文献選集

湯沢雍彦監修　人類社会において永遠のテーマであり、現在一般の関心も高い「家族」の問題を、それに係わる婚姻、親子、婦人、離婚等を含めて学際的に精選集成。
戦前篇　全15巻／別巻１／別冊解題　揃定価158,620円
戦後篇　全22巻／別冊解題　揃定価186,430円

家庭教育文献叢書

石川松太郎監修・解説　家族が家庭で子でもに基本的な養育と社会化を行う「家庭教育」は子どもの人格形成に重要な役割をもち、教育の基本である。明治より昭和20年（終戦）までの家庭教育を中心に女子教育、幼児教育、生涯教育等の史料を復刻。　**全18巻　揃定価175,100円**

〒103 東京都中央区日本橋小伝馬町14－5 メローナ日本橋
☎03(3808)1821　FAX03(3808)1822　振替東京8－410426

KRESS 株式会社クレス出版